

やすらぎ

35号

平成24年9/1
二中地区市民委員会
文化・広報部発行
電話 824-3588
FAX 824-3553

防災は生き延びる知恵

（二中地区防災対策の現状）

昨年の大震災では二中地区もかなりの被害を受け、防災に対する考えを新たにしたところでした。一年半が経過し、私達の防災対策を見つめてみることは意味があると考えて、二中地区の現状をまとめました。

防災の基本は「まず三日、自分で生きる覚悟して」（自助）。「声かけて近所みんなで早めに避難」（共助）。「避難勧告、疑わないうで従おう」（公助）といわれています。（日本技術士会防災委員会資料より）

今回は公民館の支援設備や行政機関の支援体制の紹介（公助）、避難誘導、情報伝達、防災体制等の現状を各区長さんのご協力をいただいでまとめました（共助）。最後に自助として、各家庭で最低限、行うべきこととされる推奨事項を紹介しました。



二中地区公民館（一時避難場所）

表1 ● 地域の通園通学施設 14ヶ所 ●

H24.7月現在	5528名
・乳幼児施設（7ヶ所）	610名
・小・中学校（2校）	1306名
・高校（3校）	2266名
	（夜間 94名）
・短大・大学（2校）	1343名
	（H25大学600名増予定）
	（土浦市子育て支援ガイドブック）

表2 ● 二中地区人口増加中 ●

（住民基本台帳より）	
H23.4.1 現在	7184世帯
H24.4.1 現在	7370世帯
	（186増）
	※集合住宅の増加傾向有り

表3 ● 保育所・幼稚園・小中学校での見直し ●

- ・電話、メール発信できなかったため、震度5で迎えに行くことになった。
- ・情報確保設備の整備→CDラジカセ、アナログ式電話、移動式防災無線、カーラジオ。地域の井戸の標示。
- ・備蓄の見直し→水、電池、タオル、食料等。
- ・施設強化→飛散防止シート、耐震工事、井戸を掘る等。

● 避難所になった小・中での見直し ●

- ・体育館にTVの設置。
- ・備蓄量 毛布等の不足の充足。
- ・学校職員がボランティアで宿泊対応。
- ・無線等の訓練の強化。

一、公共施設・設備の見直し

二中地区は土浦市内でも教育施設が非常に多いことが特徴です。乳幼児から大学生まで約6000名が学んでいます（表1）。また、このころ世帯数の増加も顕著です（表2）。市では震災発生時に初期情報伝達手段の不備から混乱したため、改善と確認を行いました。二中地区公民館には既設のAEDの他に、ガスボンベ式発電機及び移動式無線機が設置され、それらの使用訓練回数を増やしました。

児童生徒対策では、電話やメールの通信不良が発生したことから、震度5で親が幼小中学校に迎えに行くことが基本になりました。世帯数増加や昼間人口の増加に伴い、避難所の増設も行われています（24年度市



左からガスボンベ式発電機、移動式無線機、AED

民くらしの便利帳P3）。28市内小中校、8高校及び7公園が指定されていますが二中地区には真鍋小学校など7箇所（表4）があります。このうち、二中には医療救護所が設けられることになっています。

市は災害対策としての避難所の役割を次のように定めています。

- ①食料、水、救護物資等の配布場所
- ②生活情報の提供場所
- ③家族の安否確認場所
- ④避難所

運営は避難者代表と地域住民（自主防災会中心）で構成する避難所運営委員会が当たり、市、学校及びボランティアが支援すると規定されました。

その他、避難所になる学校の体育館にTVを設置したり、防災放送の

聴こえづらさの解消や一部崩壊した
二中学校耐震工事、飲料用井戸の新
設検討等が進められています。

みんなの二中地区がより安心、安
全な町へと変わっていくことを願う
ものです。

二、初動体制・情報伝達

災害発生後、直ちに区長が防災委
員を招集し対策本部を立ち上げ、予
め定めた情報連絡ルートを使って、
情報の収集、伝達を行うよう組織化
している地区（東真鍋町、真鍋四丁
目等）や、役員が地区内の被害状況
を目視により把握すると共に被害者
を避難所に誘導することを定めてい
る地区（殿里町、木田余西台）等、
地区の事情により体制は様々です
が、安全確認、避難誘導を行う仕組
みは備わっているようです。しかし、
情報伝達については電話連絡以外に
具体的な方法が示されなかったこと



から、市の防災無線放送以外に地区
内での伝達手法、正確な情報を得る
方法は未だ検討の余地があるように
感じられます。

三、要援護者への対応

各地域では、要援護者を見守る活
動をしています。民生委員児童委員、
区長、青少年相談員の方がいて多く
の相談に応じています。

① 乳幼児・小・中学生対応

就学すると地域の育成会に所属す
るため、情報が入りやすくなります
が、未就学児の親は、自分から求め
ていかないと、前回の震災でも給水
場や避難所が不明確だったこと、放
射能への不安等の声も聞かれました。
幼稚園、保育所、子育て支援セ
ンター等地域との積極的な交流を心
がけることが必要でしょう。

小・中学生には、子ども会、育成
会の活動で具体的な体験型教育の場
を持つ試みも行われています。

真鍋四丁目では、防災セミナー（岩
手県釜石市の小学校がモデルのビデ
オ）で具体的に学びました。

また、地域公民館を一時避難・情
報提供場所としての活用を検討中の
所もあります。

・子育て支援ガイドブック（市子ど
も福祉課発行。公民館、支所に
常置）に避難所、一時避難所が

出ている他、医療相談が可能な
場所等、情報がまとまっていま
すが、道路に誘導標識を整備す
ることも重要と思われれます。

表4 二中地区 地震時の避難場所

- ◆真鍋小学校
- ◆都和小学校
- ◆都和南小学校
- ◆土浦第二中学校
- ◆土浦第一高等学校
- ◆つくば国際大学高等学校
- ◆土浦工業高等学校

② 独居老人・病人対応

民生委員が中心となって、市の開
示情報に基づいて管理台帳を作成
し、災害発生時は班長が中心となっ
て、避難所へ誘導する体制を整えて
いる地区（真鍋四丁目、五丁目他）
があります。今後、このような地区
が増えて行くことが望まれます。

四、給水・炊き出し

① 給水

災害発生と同時に停電し、水道は
もちろん井戸水汲み上げポンプも止
まった苦い経験から、ペットボトル
での備蓄やバスタブに貯水する等で
自衛する家庭が増えています。しか
し停電復旧は断水復旧の保証ではな
いため、井戸水の活用は重要です。
各地区とも井戸水の活用は協力を

求め、災害時には「井戸水有り」と
貼り紙をすることを依頼していま
す。更に協力井戸の所在地を防災
マップに記入して周知徹底を図って
いる地区（真鍋四丁目）もあります。

② 炊き出し

昨年の震災時には木田余地区や若
松町では炊き出しを行い、住民に感
謝された実績がありますが、その時
の経験から備蓄米量を増やしたり、
燃料確保に工夫を凝らしています
（木田余）。真鍋五丁目では、婦人防
火クラブが主催で、育成会、育成会
OB、婦人学級メンバーを対象に大
震災前から年一回公民館にて防災防
火の講習会を実施しています。

一例として、白米を研がずに、ビ
ニール袋に米・水を入れ、お湯の中



消火訓練の様子 (真鍋四丁目)



五、防災体制

で炊ける体験学習は、いざという時に親子共々役立つとのこととで継続しています。

震災以前は組織として活動する機会がなかったため、折角所有していた機材が使えなかったことを反省して、機材の定期点検や古い機材の交換を行った地区（木田余）や、とかく形式的であった消火訓練に工夫を加えた地区（真鍋四丁目）がみられます。住宅用火災警報器及び消火器の設置義務徹底の呼びかけや負傷者運搬体験を実施したり、震度6を想定した火の始末や家の戸締まりを行った際に、玄関に「避難完了」の札を貼るといふ安全確認の徹底を

図っています。その他、市消防本部指導の下に災害時に直接、消防本部へ通報する火災通報訓練も実施しています。またNPO法人「県防災士ネットワーク」から講師を招き「防災講習会」を開催しました。一方、木田余西台のように区内に公園もないために防災機材用倉庫を設置する場所の選定に苦慮している等、アンバランスな面も伺えます。防災は生き延びる知恵といわれています。「自分の命は自分で守る」の防災心得を思い出して、我が家の防災対策を確認しましょう。

六、家庭での対策

あなたの緊急避難場所はどこですか？
備蓄品はそろっていませんか？
家族間の連絡方法は決まっていますか？

① 非常時持ち出し品・備蓄品

被災時に必要なものは家庭ごとに異なります。家族構成、年齢、職業、通学通勤距離等々、生活形態が様々ですから当然でしょう。一般的にいわれていることに頼らず、我が家の避難生活には当面、何が必要かを良く考えて揃える必要があります。

保存食に関しては保存期限の確認は勿論、一パックあたりのカロリー数を調べるのが重要です。避難生活当初は意外に消耗の激しい労働が多いといわれています。また、食品類を定期的に買い替える手間を惜しんではならないでしょう。

便利なものとして吸湿発汗性の下着類、季節によってはジャージ上下が、そしていろいろな使い方が出来ることからタオル（4〜5枚/人）の利便性が注目されています。

② 事前の家屋対策（危険箇所の点検補修）

非常時持ち出し品も備蓄品も重要な災害対策品ですが、災害防止策ではありません。被災時に身の安全が図られてから役立つものです。

災害発生の瞬間に身を守るためには生活している家屋の安全対策が命を分ける鍵になります。

耐震強度の高い家が理想ですが、被害をより少ない家にするだけでも効果があります。

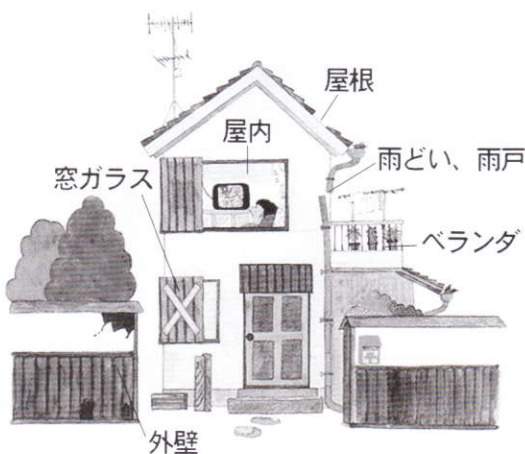
① 建物対策

- ・ 屋根瓦の割れ、ひび、ずれ、剥がれ等の補修。
- ・ 窓ガラスを飛来物から守る補強。
- ・ 雨樋の土砂、枯葉等の詰り除去と破損箇所の修理。

② 屋内対策

- ・ 壁の亀裂、腐れの修理。
- ・ 雨戸の緩み、がたつき補修。
- ・ 家具や収納品の固定とガラス飛散防止で転倒や散乱による圧死や負傷を防止。
- ・ 浸水の可能性があるところでは生活用品の収納場所を高所に移動。
- ・ 重いもの、高価なものは腰より低い位置に収納。
- ・ 地震や風水害時に緊急退避する室内の場所を家族で話し合い、決めておく。

以上、防災の基礎になる「自助」の要点を紹介しました。各家庭での対策のヒントになれば幸いです。



**二中地区
新任地区長
紹介**

町名
地区長名
趣味
座右の銘



東真鍋町
高橋 和興
読書、ウォーキング
和をもって接する



殿里町
大沼 照平
野球
為せば成る為さねば成らぬ



真鍋四丁目
勝間田 貞美
写真
誠実



木田余西台
糟谷 邦弘
ウォーキング、野菜づくり
何事も一生懸命する

**二中地区の
人材募集**

二中地区公民館では、公民館講座をはじめとして、文化祭、市民委員会活動、地域福祉活動、チャレンジクラブ活動など様々な活動をしています。これらの活動に協力していただけの方を募集します。

例えば、「介護など仕事の経験を地域で活かしたい」、「公民館の庭づくりをお手伝いしたい」、「子どもたちに紙飛行機の楽しさを伝えたい」、「書道が得意です、講座で教えたい」等、地域の力になりたいけど、どうしていいのかわからない方は、いませんか？

「手を貸すよ、人材バンクに登録するよ」という方は、是非、公民館まで、連絡をお願いします。

☎82413588

**新着図書
紹介**



ビブリア古書堂の事件手帖 三上 延
ユリゴッコ 沼田まほかる
舟を編む 三浦しをん
誰かが足りない 宮下 奈都
人質の朗読会 小川 洋子
ツリーハウス 角田 光代

- | | |
|---------------------|-------|
| ジエノサイド | 高野 和明 |
| プリズム | 百田 尚樹 |
| 蝸ノ記 | 葉室 麟 |
| 下町ロケット | 池井戸 潤 |
| ピエタ | 大島真寿美 |
| 偉大なる、しゅららぼん | 万城目 学 |
| くちびるに歌を | 中田 永一 |
| 楽園のカンヴァス | 原田 マハ |
| 毒婦 | 北原みのり |
| 花酔ひ | 村山 由佳 |
| 母の遺産 | 水村 美苗 |
| 七夜物語 上・下 | 川上 弘美 |
| ナインティズ岩手県 災害対策本部の闘い | 河原 れん |

● **本のリサイクル
コーナーについて**

公民館の一階ロビーの本棚にリサイクルコーナーを設けましたので活用して下さい。

本は一度読んだら、なかなか読み返しはしないものです。新刊書や発行年月日の新しい本・きれいな本をリサイクルして公民館を本の交換・交流の場所にしませんか？

なお、古い本や汚れた本などの場合は受け入れをお断りする場合がありますので、事前に電話等によりお問合せをお願いします。

☎82413588

本年度の新職員紹介



公民館主事
橋内 百合

公民館主事 橋内 百合
神立出張所より移動してきました。すぐに総会等が続き戸惑いでしたが、様々な活動に参加させていただいて、少しずつ公民館の仕事にも慣れてきました。



公民館指導員
福田 隆通

地域のコミュニティとしての役割を考えながら、楽しく利用していただける公民館を目指し、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

公民館指導員 福田 隆通
当公民館にお世話になり4ヶ月が過ぎました。公民館運営に携わる地域の多くの方々との出会いで感じたことは、地域の方々が当館に親しみと愛着を持ち、楽しいふれあいの場として積極的に活動されていることです。チャレンジクラブを通して、地域の一員として微力ながら努力していきたいと思えます。

喜連川 社会復帰促進センター 視察報告

二中地区コミュニティセンター
所長 浜田 衛

平成24年2月16日、二中地区市民委員会の合同視察研修に参加しましたので報告します。

「喜連川社会復帰促進センター」（栃木県）は、民間の経営能力や技術を活用し、公共施設を建設し運営するPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）方式の刑務所で、犯罪傾向の進んでいない受刑者を対象に規律正しい生活の下、刑務作業、職業訓練、矯正教育など社会復帰に向けた更生プログラムを実施することにより再犯を防止し、社会に迎えられる「人材の再生」を目指している施設です。二中地区市民委員会は、犯罪防止や受刑者更生について理解を深め、今後の青少年育成の参考にするを目的に視察を行いました。

PFI刑務所には「美祢」（山口県）、「播磨」（兵庫県）、「島根あさひ」

（島根県）などがありますが、これらの刑務所が過疎化解消を掲げて、当初からPFIを念頭において計画されているのに比べ、喜連川の施設は計画の途中からPFIを導入することになったため、やや中途半端なPFI導入となっています。

例をあげると、「島根あさひ」や「美祢」の刑務所が、3重のフェンスで囲まれたコンクリートの外壁のない刑務所内を受刑者が独歩（単独歩行）できるのに対して、喜連川はコンクリートの外壁に囲まれ独歩はできない従来型の刑務所に近い施設です。

職員は、国の刑務職員が246名、大手警備会社を中心とするSPC（特別目的会社）の職員数は一定ではなく、委託された仕事ができれば職員数は委託側の裁量の範囲という説明でした。

15年間の委託料は387億円、経費を抑えればそれだけ利益が出ますが、仕事内容を国がモニタリングし評価しているので、委託された仕事のレベルが低ければ改善を指導される仕組みです。

受刑者は障害を持った方を含めて約2000名。施設入所が初めてで、かつ刑期は8年未満に限定されています。平均年齢は32歳、仮釈放率は80%、平均3年程度で社会に戻っていくため、調理やクリーニングの設備などは実際に社会で使われている

ものを使用し、社会復帰のための設備が整っています。

建物は、X字型を基本に、中心に監視センターを置いて、東西南北を見通すことができるなど管理しやすくデザインされています。受刑者の収容棟は単独居室（6畳）が6割、共同洋室（12畳）が4割で室内にはベッドやテレビが完備されています。テレビ放送は、あらかじめ録画したものを選んで放送し、午後9時が就寝の時間です。

東京ドームの9個分のセンター内には、運動場、体育館、農園などがあり、すべての食事をSPCの職員と受刑者が作っています。洗濯も同様で、センター内に大きな洗濯工場があり、そこでクリーニングやアイロンかけなどを行っています。

平成21年度から始まった裁判員制度により私たち一般市民も裁判に関わるようになり、有罪が無罪かだけではなく死刑も含めて量刑の判断は市民に委ねられています。「喜連川社会復帰促進センター」は、その理念に「人材の再生」を掲げ、仕事に就けば再犯防止にもつながるとの観点から調理師やホームヘルパーの資格取得もできるなど、「社会復帰」に重きをおいた刑務所です。犯した罪を償って、社会で再出発するため刑務所はどういった施設環境、どういった矯正教育が良いのか、社会

の側の偏見や受け入れた体制の問題など、色々と考えさせられる視察研修でした。

玄関ロビーには、受刑者の製作した巾着袋や木工品などがお土産として販売されていました。刑務所内の食堂は見学者も利用可能で、定食500円、カレーは370円でした。

受刑者の区画に入るには、指紋を読み取るセキュリティシステムにより管理されており、センター内の撮影はできませんが、玄関前は撮影可ということなので、記念撮影を行いました。



事業計画

運営委員会・市民委員会

平成24年度二中地区公民館運営委員会及び市民委員会が去る5月13日(日)に開催され、平成24年度事業計画が原案どおり承認されました。その概要をお知らせします。

■運営委員会事業計画

①「ともに学び 活かす 人と地域を結ぶまち 土浦」(第三次土浦市生涯学習推進計画の基本理念)の推進

実践目標

①学ぶための環境づくり

- ・多様な学習メニューの展開(市民の多様な学習意欲に対応する公民館講座)
- ・学習機会の拡充(夜間や土曜日・日曜日開講の講座の開催)
- ・公民館備品の充実
- ・新規図書購入、図書リサイクルコーナーの充実

②人や地域のネットワークづくり

- ・二中地区市民委員会との連携(公民館講座への協力)
- ・地域のボランティアとの連携(福祉ボランティア体験講座への協力)
- ・小学校、中学校との連携・協力の協力)

(チャレンジクラブ、サタデーイベントの開催)

③学習成果を活かす仕組みづくり

- ・自主的活動への支援強化(同好会、サークルの育成)
- ・学習成果発表の場の拡充(「文化祭」や「桜を楽しむ集い」への参加)
- ・人材育成と活躍の場の拡充(子育てサロン、「いきいきサロン」など)

②前期公民館講座

- ・はじめての庭づくりⅡ
 - ・手で綴じる本
 - ・素晴らしい製本の世界
 - ・常陸国風土記を読む
 - ・癒しのリンパマッサージ
 - ・ユネスコ無形文化遺産に親しむ!(能・狂言編)
 - ・山ガール入門Ⅱ
 - ・みんなで楽しく!スクエアステップで要介護予防
 - ・夏のプランチ&スイーツ
- ③「夏休み市民講座」の開催
- ・「刑法・少年法と死刑」講師 明治大学法学部教授 上野 正雄 (8月11日開催済)

④後期公民館講座

- ・山ガール(栃木の低山に行く)
- ・ユネスコ無形文化遺産に親しむ!
- ・クリスマスローズ(育て方からデジタル一眼レフカメラ「基礎からプリントまで」)
- ・ふたりで作る料理講座
- ・母と子のための放射線のはなし
- ・お肌とボディの冬対策とアロマ
- ・「WAになって踊ろう!フォークダンス」

⑤第二十六回二中地区文化祭開催

- 11月18日(日) ~ 11月25日(日)
- ・文化芸術展
- ・芸能大会、模擬店、その他団体発表

■市民委員会事業計画

○福祉部

- ・視察研修 静霞園(ユニット型 4月1日オープン)
- ・福祉映画鑑賞会(笑いのあるもの)
- ・福祉講習会 調理ボランティア講座(社協と共催)
- ・合同視察研修

○安全部

- ・防犯パトロール(真鍋地区)
- ・出前講座開催(放射能)
- ・勉強会(生活に役立つ法律講座)
- ・交通安全キャンペーン(夏・秋)
- ・視察研修 防災関係・交通

- ・青色灯パトロール車講習(車両購入等)
- ・AEDの講習会
- ・合同視察研修

○スポーツ健康部

- ・バスハイキング 春(つつじ)
- ・バスハイキング 秋(紅葉)
- ・チャレンジクラブ事業協力
- ・二中地区体育祭、歩く会、ラジオ体操協力
- ・合同視察研修

○環境部

- ・花いっぱい運動、グリーンカーテン運動
- ・環境マップ 各町内一枚作成
- ・ポイ捨て防止看板設置(看板作成は真鍋小学校の児童)
- ・土浦市環境展(協力)
- ・合同視察研修

○文化広報部

- ・広報誌「やすらぎ35号」発行
- ・広報誌「やすらぎ36号」発行
- ・視察研修
- ・合同視察研修
- 青少年育成部
- ・裁判所視察研修
- ・チャレンジクラブ事業協力
- ・羽田空港整備工場、江東区防災センター見学
- ・合同視察研修

■公民館運営委員会・市民委員会役員名

委員長	羽生 佐洪
副委員長	赤根 益男
常任委員 (福祉部)	南川幸之進
常任委員 (安全部)	久松けい子
常任委員 (スポーツ健康部)	南川幸之進
常任委員 (環境部)	大金 照美
常任委員 (文化広報部)	大貫 文男
常任委員 (青少年育成部)	仲沼 信之
常任委員 (学識経験者)	榎戸 崇雄
監事	海老原 一郎
	山口 卓三
	堀 武

■公民館運営委員会委員及び市民委員会委員数

各地区長	16名
市民委員会専門部員	96名
真鍋小学校校長	
PTA会長	
同窓会会長	
土浦第二中学校校長	
PTA会長	
連合同窓会会長	
民生委員児童委員協議会会長	
高齢者クラブ代表	
真小地区子供会育成連合会代表	
二中地区体育協会代表	
交通安全協会代表	
青少年相談員二中ブロック長	

保護司代表
真鍋小学校なでしこ会代表
真鍋台婦人学級代表
なでしこ婦人学級代表
学識経験者
真鍋郵便局長
真鍋台郵便局長
土浦農協理事
地区内青年会代表(真鍋連合、木田余、若松町)
二中地区公民館同好会代表
防犯協会代表
福祉協議会真鍋支部代表
交通安全母の会代表
農家組合長(真鍋・木田余)
合計 159名



平成24年度 総会

社協真鍋支部事業計画

「誰もが安心して暮らせる
福祉のまちづくり」

二中地区公民館の「社会福祉協議会真鍋支部」は、支部職員(地域ケアコーディネーター)が常駐する身近な福祉の相談窓口です。地域福祉の拠点として、関係機関と連携しながら様々な相談に対応しています。例えば、

◎ひとり暮らしの高齢者が食事づくりや掃除に困っている。

◎福祉サービスを受けたいけれど、どうしてもいかならない。

◎家族に介護が必要になった時、利用できる制度を知りたい。など、気軽にご相談下さい。

社協真鍋支部は、「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という市民の皆様の願いを実現するため、市民参加のもと、小地域福祉活動を積極的に展開しています。

本年度の事業計画は次のようになりました。

◇広報啓発活動

- ・ 広報紙「社協だより」等による広報活動

◇研修活動

- ・ 支部委員研修の実施
- ・ インスタントシニア(高齢者疑

似体験)、車椅子体験等、各種福祉体験講座

- ・ 宅配ボランティア研修会
- ・ 調理ボランティア養成講座(新規)
- ・ キッズボランティア講座(新規)

◇ふれあいネットワーク(地域ケアシステム)の推進

- ・ 要援護や関係機関などからの相談受付
- ・ 実務者により地域の要援護への対応を協議する「スクラムネット」の開催(月1回)

・ 医療・保健・福祉の専門職により特に対応困難なケースを協議する「ふれあい調整会議」の開催(隔月1回)

・ 民生委員児童委員協議会及び市民委員会と連携して地域の要支援者の把握

◇地域福祉活動

- ・ 宅配型食事サービス事業の実施(第1金曜日・第3土曜日)
- ・ 会食型食事サービス事業の実施(年2回)

・ ひとり暮らし高齢者交流会の開催(年2回)

- ・ ふれあいいきいきサロンの推進
- ・ 車椅子の貸出し(短期)



チャレンジクラブの活動

指導員 福田 隆通

最近、少子化、都市化などに伴い子どもたちが地域の中で集団で遊ぶ姿があまり見られなくなっています。

そのような課題に向けてチャレンジクラブは地域での遊び場を意図的に計画し地域の小中学生が各公民館を拠点にさまざまな体験活動をしなから、仲間づくりや生きる力(挑戦する心・社会性・体力等)そして郷土愛を育てる事業です。

市民委員会、特に青少年育成部の皆さんの支援をいただき、今年度、真鍋小の四・五・六年生31名は、二中区チャレンジクラブの目標の一つである「環境問題」とかわりながら元気に活動しています。

〈年間活動計画紹介〉

- 5月 開講式と環境問題の講話
- 6月 まが玉づくりと野外炊飯
- 7月 霞ヶ浦湖上スクール体験
- 8月 「ツインリンクもてぎ」
- 9月 地域の人に絵手紙を描こう
- 10月 りんりんロードサイクリング
- 11月 身近な山(宝篋山)の登山
- 12月 二中区文化祭参加
- 12月 チャレンジ合同コンサート
- 1月 特製ランチづくり
- 2月 フラワーアレンジと閉講式

前期講座

受講者の声

「ユネスコ無形文化遺産に親しむ」

康 倫明

私達夫婦にとって初めての能楽鑑賞。当日は大雨洪滞でバスの出発に間に合わず、スーパーひたちで追っかけ、なんとか開演直前に滑り込み、鑑賞開始。まずは能楽の解説で基礎知識と演目のみどころを知る。パンフレットにもマンガ付きの解説があるし、座席の前には字幕が出るので話の内容もよくわかる。狂言は「柿山伏」。柿泥棒の山伏を畑主がからかう物語。わずかな空間の中で立体的イメージが豊かに伝わる。愉快な気分浸った後は能「葵上」。源氏物語の一場面、葵上に六条御息所の生霊が取り付き、巫女や高僧の法力で鎮める物語。女性の怨念が内面の葛藤を表現する「泥眼」の面から鬼女「般若」の面に変わるド迫力。鼓の凜とした響き、能管の幽玄な音と謡が能



楽堂の空間に満ち、豊かな臨場感に浸ります。観劇の後は近くの洋食屋で遅めのランチ。これが結構おいしい満足感一杯で帰路に。次回の文楽(人形浄瑠璃)鑑賞会も食事を含めて楽しめるように期待できます。

「夏のランチ&スイーツ」

宮本 晶

初めてこのような料理教室に参加させていただき、昔の調理実習を思い出し、とても楽しく料理をさせていただきました。

料理作りでは、普段あまり料理をしないためどうしても料理のスピードが遅くなってしまいました。周りの方々のサポートもありなんとか作りあげることが出来ました。多少完成の見た目が雑になってしまいましたが、味のほうは大満足で毎回とても美味しくできました。

今回作った料理とデザートは家ですぐに作ってみようと思える食材やメニューで、実際、教えていただいた料理を家で作り、とても美味しく出来ました。これから色々な料理を作ろうと思える良いきっかけになりましたので、今後はどんどん自宅でも料理をしていこうと思います。有難うございました。

「癒しのリンパマッサージ」

Y・T

市民講座を受講しようとして、今まで何度か「市報」は目を通してきたのですが、日程(曜日・時間帯)が合わなかったり、内容に興味を持ってなかったりなど、様々な理由で、申し込みまでいたりませんでした。

そのような時、時間帯・曜日や回数なども、ちょうど私の予定に合うこの講座を見つけました。

不安な中で初日を迎えました。受講生の方々は、初対面でも話しやすい方が多く、また講師の先生も、非常に親しみやすく、わかり易い講義をして下さるので、通うことが本当に楽しみになりました。

これを機会にまた新たな趣味を広げることができ、嬉しく思っております。私のような初心者でも全く抵抗無く受講できますので、「市民講座」の申し込みに躊躇されている方がおられたら、是非トライしてみられたらいかがでしょうか。

編集後記

35号は防災対策特集としました。改めて多くの人々が、地域のつながりと出会いの大切さを感じたことと思います。これからも、やさしさ、が何かのお役に立てれば幸いです。